

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	DOWAエコシステム(株)熊本事業所	階数	地上2F
建設地	熊本県宇城市	構造	S造
用途地域	都市計画区域外、法第22条区域	平均居住人員	50 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2025年6月30日
敷地面積	101,526 m ²	作成者	(株)イズミコンサルティング
建築面積	7,511 m ²	確認日	2025年6月30日
延床面積	8,893 m ²	確認者	藤井産業(株)一級建築士事務所

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

環境品質

環境負荷 L

100

50

0

0

50

100

3.0

1.5

BEE=1.0

0.5

0

34

1.7

31

S

A

B+

B-

C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値

②建築物の取組み

③上記+②以外の

④上記+

建設

修繕・更新・解体

運用

オンサイト

オフサイト

0

46

92

(kg-CO₂/年・m²)

100%

86%

86%

86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

5

4

3

2

1

Q1 室内環境

Q3 室外環境（敷地内）

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

5

4

3

2

1

N.A.

N.A.

N.A.

N.A.

音環境

温熱環境

光・視環境

空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

5

4

3

2

1

N.A.

3.3

3.4

機能性

耐用性

対応性

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア= 3.0

5

4

3

2

1

3.0

3.0

3.0

生物環境

まちなみ

地域性・

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

5

4

3

2

1

4.7

3.0

4.7

3.0

建物外皮の

自然エネ

設備システ

効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

5

4

3

2

1

3.8

3.5

3.6

水資源

非再生材料の

汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.3

5

4

3

2

1

3.5

3.3

3.1

地球温暖化

地域環境

周辺環境

3 設計上の配慮事項

総合

本建物はDOWAエコシステムおよびグループ企業（アクトビリーサイクリング・エコシステムリサイクリング）の非鉄金属・プラスチックリサイクル施設である。敷地内の既存緑地を残し、調和する緑地を設置する事で景観に配慮している。

その他

耐用年数の長い材料を使い耐用性の高い建物としている。また、階高を高くしラックによる配線など設備の更新性を高めた建物としている。

Q1 室内環境

-

Q2 サービス性能

階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。

Q3 室外環境（敷地内）

夜間照明、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。

LR1 エネルギー

LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

自動水栓、泡沫水栓、節水こまなどの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。

LR3 敷地外環境

燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
DOWAエコシステム(株)熊本事業所

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					-		-	-
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-		-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		-	-	-	-	-
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温		-		-	-	-	-	
2 外皮性能		-		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-		-	-	-	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率		-		-	-	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		-	-	-	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	
1 昼光制御		-		-	-	-	-	
3.3 照度		-		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-		-	-	-	-	
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-		-	-	-	-	
4.2 換気				-	-	-	-	
1 換気量		-		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.4
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-	-
3 内装計画		-		-	-	-	-	
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ガルバリウム鋼板:30年、サイディング:40年		5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル系床材20年、壁:クロス貼20年、天井:ボード30年		5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具を採用、可能な限り配管系統を区分など		4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-	-

3	対応性・更新性			3.4	0.50	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	平均階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		—	2.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	3.0	
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	4.7	0.20	-	-	4.7
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEIm =0.63	4.7	0.50	-	-	4.7
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	-	3.5
1	水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
	1.1	節水	自動水栓、泡沫水栓、節水こまや節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水を利用している	4.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	木質系セメント板:屋根、ボード:天井	4.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材種別を3つ採用している	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=10未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率86%	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		—	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たす	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	○	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		-	2.0	2.0	-	1.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	3.0	-	2.0	-	-	-	-	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○		○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	3.0	3.0	1.0	-	-	2.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	-	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		-	窓の日射熱取得率(η)		-					
U値(W/m2K)		窓システム		-	屋根	-	外壁	-	床	-
住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値		-	η AC	-	η AH		-
昼光率		0.0%								
自然換気有効開口面積率		0.0%								

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上り材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上り材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量		0.0 VA/㎡				
天井高		0 m				
リフレッシュスペース		0.0%	レストスペース	0.0%		
想定耐用年数		-	年			
想定必要間隔		-	年			
想定必要間隔		-	年			
想定必要間隔		-	年			
階高		-	m			
壁長さ比率		-				
床荷重		-	N/m2			

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	29%	建物緑化指数	0%				
空地率	93%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	27%	舗装面積率	0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.83	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量		0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -
			通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
BEI/BEI _m	非住宅 0.63	住宅 -	太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率		-			
特定調達品目	木質系セメント板	エコマーク商品	ボード	自治体指定の特定品目等	-
使用比率		-			
オゾン層破壊係数(ODP)		-	地球温暖化係数(GWP)		-
オゾン層破壊係数(ODP)		-	地球温暖化係数(GWP)		-
オゾン層破壊係数(ODP)		-	地球温暖化係数(GWP)		-

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	26%	隣棟間隔指標Rw	25.57				
地表面対策面積率	27.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積Sb	1,207㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	317.3 m	基準高さHb	14.14 m		
緑地	#####	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
						再帰性反射対策面	㎡